

施工◎本誌読者+本誌編集部
 施工指導◎田母神一彦(セルフビルドアドバイザー)
 記録&レポート◎本誌編集部
 写真◎佐藤弘樹、本誌編集部

施工協力一覽
 リーベ、ウッディロバート、日本エンバイロケミカルズ
 岡野健(木のミュージアム館長)、小池英恵(樹木区)

ドゥーパ! ツリーハウスプロジェクト概要

- 施工期間…プランから完成まで約1年。その間の施工日は4日間
- 施工人数…読者、編集スタッフ、施工アドバイザーなど、総勢11名が参加
- 立地…疎林地帯の急斜面
- ホストツリー…コナラ
- 基礎の工法…ボルト+特注のL字アングル鋼材
- ツリーハウスの床面積…約3㎡
- ツリーハウスの高さ…3~4m
- ツリーハウスへの連絡…対岸のデッキから橋で渡る
- 主な資材…サイプレス、スキ板、ウエスタンレッドシダー、竹、針葉樹合板、スキの角材、鉄製特注アングル

構想からほぼ1年、「みんなで作るツリーハウス建設DDTP(ドゥーパ! ツリーハウスプロジェクト)」がついに最終日を迎えた。房総のドゥーパ! ベースキャンプ内にある1本のコナラの巨木にツリーハウスを作るという、このワクワク計画は、セルフビルドアドバイザーの田母神一彦氏の指導のもと、本誌編集部がサポート役にまわり、ワークショップに集まった本誌読者が自らの手で建設するというもの。ここでは4回にわたって開催されたワークショップを振り返り、あこがれのツリーハウス・セルフビルド大成功への道を改めて辿ってみよう。



裏から見上げると、けっこうな迫力。地上から3~4mのハイレベルツリーハウスだ



近くの山から伐採した青竹を外壁に張ったユニークなツリーハウス。チョット見、モンゴルのバオ?

参加者の面々です、DIY好きな面々です



川名政幸さん
(千葉県館山市)



三浦雄一さん
(千葉県木更津市)



稲葉由紀夫さん
(千葉県一宮市)



師匠の
田母神一彦さん



脇田裕文さん
(千葉県横芝光町)



福井一紀さん
(千葉県柏市)



坂上 淳さん
(千葉県袖ヶ浦市)



河野 等さん
(千葉県茂原市)

【第2特集】
ツリーハウスを作るう
Living
Under the Sky

ドゥーパ! ツリーハウス プロジェクト・グラフィティ

みんなで作った アジアンフィールの ワクワク・ツリーハウス

すごい!
最上級の達成感!



施工最終日。最後の塗装を終え、ついに完成応援の子供たちもいっしょにバンザーイ!

「プランニング」

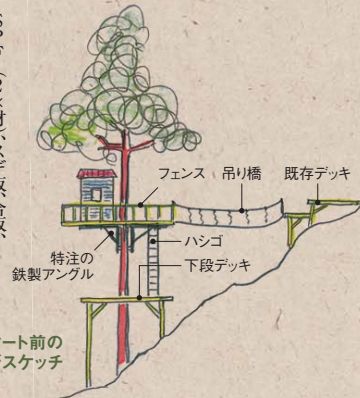
1本の大木に作るツリーハウスはボルト工法で

ツリーハウスにはいくつかの施工パターンがある。密植されている数本の幹をサンドイックした板材を幹の間に渡して大引や根太を作る法、幹や枝に干渉せず、超高床式の土台を基礎とする法、あるいは幹に特殊なアンカーボルトを打ち込み、大引を載せて基礎とする法など、それぞれ基礎とする法など、それぞれ



ホストツリーのコナラ。ブナ科の落葉広葉樹。急斜面に生えている巨木だ

れぞれの状況に合わせた方法や技術があるのだが、我がらが選んだのは、1本の樹にボルトを貫通させ、特注した巨大な鉄製のアンゲルを固定して基礎とする法。幹にボルトを貫通させることによる樹木のダメージについては、樹木の専門家に伺い、「問題ない」という意見をいただいた。専門家によれば、芯材と呼ばれる樹木の内側の中心部はほぼ生命体ではなく、ボルトが貫通しても木の生長にはほとんど影響がない。反対に木をサンディングして面を押しさえすれば、樹木の形成層にダメージを与えない「高床式」ということになりそうだが、これは高い位置に施工しにくいというデメリットがある。やはり地上からなるべく離れた高いポジションで、非日常性を楽しみたいというのが我がらの願いだ。また、ツリーハウスの樹木選びについては、やはり専門家からいただいた「地中の根は地上



の枝振りと同じ範囲で広がっている」という意見を参考に、大きなコナラを選んだ。幹の直径も約600mmと十分、枝振りも十分。ただし、急斜面にあるため、単純な形のツリーハウスではなく、対岸のデッキから橋を渡して出入りする方式を考えてみた。

で、イメージしたのが、下図のようなプランのだが、実際には吊り橋ではなく、2×材を駆使して作った普通の橋を渡したもので、ハシゴもやめ。ホストツリーの幹が屋根を貫く八角錐型の屋根になった。資材については、特注のアンゲル鋼材、サイプレス、ウエス、タンレッドシダー(2×材)、

1日目 2011年6月18日(土曜)

まず、下段デッキを作った

「午後から大雨」の予報ではじまった1日目は、田母神さん以下、6名の読者を特別参加の2名、編集部知り合いです。スタート。とにかく下段デッキだけは仕上げよと朝から悲壮な覚悟、作業そのものは、以前

ワークショップで行なった「斜面に作るウッドデッキ」の再現なので、ストレスゼロ。土掘り↓柱立て↓根太の取り付け↓床張り↓フェンスとまったくスムーズに進んだ。資材はウエブ通販でおなじみ

の「リーベ」から提供をうけたサイプレス(オーストラリアヒノキ)を床材に、3寸角の柱や2×材の根太&フェンスなど。参加者の多くはベテランDIYerで、工具の使い方もお手のもの。

午後3時、予報通りの激しい雨が降ってきたころには、片付けが終わって、どうやら無事に1日目が終わった。この日の昼飯、編集部設楽が調理担当したカレーの評判も上々。

【第2特集】
ツリーハウスを作ろう
Living Under the Sky

リーベさんから、サイプレスが届いた!
1日目の下段デッキの床材は、ウエブ通販で知られるリーベさんから提供されたサイプレス(オーストラリアヒノキ)を使用。丈夫で腐食に強く、デッキやフェンス材として人気のある材で、オーストラリアでは住宅の構造材としても広く流通している材だ。通常、厚さ20mm×幅90mm×長さ2100mmの材が1445円だ。同サイトは、頻繁にディスカウントセールされていることや豊富な資材のラインナップがあるので、DIYerの間ではよく利用されている。今回はアウトレット材として扱われているものをいただいたのだが、実際にはまったく問題なし。リーベさん、ありがとうございました。リーベの問い合わせは、☎047-470-9072、http://www.1128.jp



急斜面にデッキを作る。まずは土台から



束柱と根太が組み上がった



雨の予報のなか、無事に下段デッキの床が張り終わった。これで1日目終了

2日目 2011年10月8日(土曜)

最大の難所、特注の大型L字アンゲル4個を幹に固定

2日目。晴天。この日の参加者は5名。もちろん田母神師匠も健在。この日、いきなり未知の領域に突入した。上段のデッキの土台を載せる超大型の特注L字アンゲルの取り付け。1個80kg!これを4つ上にあけ、幹を貫通させたマジボルトで固定する。どうやって穴をあける。どうやってアンゲルを持ち上げる。水平は。な。を。クリア

アンゲルを上げて取り付け。ワッシャーやゴムのスペーサー、それでも足らずにサイプレスの端材などをスペーサーにして調整する。試行錯誤の末、昼過ぎには4個のアンゲルが無事取り付けられた。すごい!田母神師匠、アンタはエライ!天才!と歓声があがった。



下段デッキに2×材で組んだ足場の台を2個置く。この上に乗って上段デッキを作る



幹にアンゲルを取り付けるためのボルト穴をあける。幹のど真ん中を水平にあける。周囲のプレッシャーをうけながら田母神師匠が担当



根太の上に床板を張り、上段デッキが完成!この日の施工、これで終了です!

これがDTPファッション。ヘルメットと安全帯は必須アイテム

特注で調達した鉄製の巨大なL字アンゲル。1個80kgある。大きさは見えての通り。これを4つ用意した

上げる。水平は。な。を。クリアすべき問題が目の前に立ちふさがる。前日、編集部が2×材を組んで作っておいた2個の足場台を下段デッキに置き、ここを足場に、まず、ドリルで幹に穴をあける。水平を正確に確認できないから、目見当り勘が頼り

4本の全マジボルトが貫通したら、ロープやみんなの力技で



4個のアンゲルが無事取り付けられた。この日最大の難関がクリアされた



取り付けられたアンゲルの上に根太(3寸角のスギ材)を取り付ける。アンゲルには根太を取り付けるためのボルト穴があけられている



【3日目】2012年1月14日(土曜)

おおっ、家だ、樹の上の家だ！

前回から約3か月遅れ。すでに真冬だ。焚き火をカシガン5にミーンティング。この日は5名の参加者が集まった。今日はいよいよ小さな家が建つはず。編集部が前日に準備したのは、屋根材(スギ板)の塗装とツリーのハウスが建つデッキへ渡す橋の建設。それに外壁材として使う大量の竹の用意。山で伐採したモウソウタケをサタケで割き、これを外壁材として使うのだ。

で、肝心の家作りだが、最初に大仕事が残っていた。できあがった2段のデッキを貫くコナラの巨木は幹から太い2本の枝が出ており、家作りの障害になっていた。さんさん悩んだ末、1本切ることに。チェーンソーで

何回かに分けて切るのだが、高所でのチェーンソーワークはとっても危険。これは田母神師匠におまかせすることに。イヨ、ニッポンイチ！オトコモエ！さて、今回の家作りは、図面がない。サイズもデザインもその場の場で決めていく。たとえば、当初は六角形のガゼボ風の予定だったがいきなり八角形に変更。2×4材と合板でパネルを作り、それらを組み立てる前に、割いた青竹(外壁材)を張っていく。6人でやるから恐ろしく早い。青竹を張り終えた8枚のパネルを橋上に運び、幹を中心にしてぐるりと囲むように組んでいく。ビスを打ち込むインパクトドライバーの音が響

き渡り、みるみる家になっていく。入口は1カ所、窓は2カ所。これはジグソーでくり抜いた。最後の難関が屋根。垂木(2×4材)を渡し、塗装済みのスギ板を軒側(下)から横張りしていく作業だ。まず、屋根のつべんの位置の木の幹に、2×4材で組んだ八角形の輪をつけ、そこから放射状に垂木を渡し、その上にスギ材を張っていく。とにかく木の幹が不定形のため、垂木の長さや垂木間の距離もバラバラ。したがってスギ板の加工も現物合わせで墨を引いてカットするという工程を踏まなければならぬ。ああでもない、こうでもない。樹上での話し合いが長引き、気がついたら、陽が大きく傾いていた。午後4時。暗くも少し見えないうる人の戦士+師匠の奮闘で、予定通りの作業が終了。確かに家だ。間違いなくツリーハウスができていた。暗く、顔がよく見えなかったけれど、みんなの目がキラキラと輝いているのだけはよくわかった。



右側に飛び出していた太い枝を思い切ってカット。これで壁パネルを組みやすくなった



2×4材でパネルの骨組みを組み、合板を張る。これを8枚



合板の上に半割あるいは3分割の竹を張っていく。下穴をあけてからビスで打ち留めていく



竹を張った8枚のパネルを上段デッキの上で組んでいく。入口は大きく開口させている

ウッドロバートさんから、ウエスタンレッドシダーが届いた！

この日、垂木やパネル、橋の下地などに使ったウエスタンレッドシダー(2×材)は、本誌でもおなじみのウエスタンレッドシダー専門店ウエスタンレッドシダーの提供によるものだ。ウエスタンレッドシダーは、加工しやすく、耐久性も高いので、デッキ材やフェンス材などに大人気。加えて同社は2×5とか、2×2とかの特注サイズにも対応してくれるのが特長だ。購入はウェブから簡単にできる。また、不定期にDIY応援セールを実施しており、たとえば6枚の2×4材が600円、3000mmの2×6材が1880円など、安価な価格設定をしているのも魅力だ。ウッドロバートの問い合わせは、☎0475-36-3824、<http://woody-rbt.co.jp>

【第2特集】
ツリーハウスを作ろう
Living Under the Sky



キシラデコールを塗装、スギ材のナチュラル感をより強調

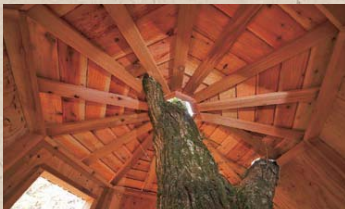
屋根材に使ったスギ材のナチュラルな風合いを生かすために選んだのが、木材保護塗料の定番、キシラデコール。この塗料は塗りやすいだけでなく、鮮やかな色が長持ちし、木目がきれいに仕上がるのが魅力だ。豊富なカラーバリエーションが用意されているが、今回はマホガニ色を選んだ。赤みがかった深い色で、自然のなかでよく映える評判も上々。は必要だ



垂木を木の幹から放射線状に付けていく。幹には垂木が載る八角形の輪が見える



垂木の上に、下からスギ板を張っていく。スギ板はすでに塗装済み



内側から天井を見上げる。屋根材の下の垂木が放射状に取り付けられているのがわかる



くり抜いた窓は窓枠をつけた

【最終日】2012年1月28日(土曜)

楽しく塗装、そして完成。パーティーだ

いよいよ最終日。この日は用意した塗料(キシラデコール)を橋や床、デッキフロアに塗装するだけ。屋根の塗装は組む前に地上で終わらせた。というわけで、作業はあっという間に終わった。

ホッカホカ。稲葉さんが美味しいお菓子を差し入れ、三浦さんが得意のダッチオーブン料理(漏れいトマトスープとローストチキンでした)を披露してくれました。なによりも自分たちで作ったツリーハウスを目の前にして、はしゃぐのがいい。

プランからおおよそ1年。ゆっくりと、しかし確実に進んできたDTP(ドゥーパ、ツリーハウス・プロジェクト)が、ようやく最終章を迎えたのだ。しかし、見れば見るほどかっこいいね。青竹で化粧した無国籍ツリーハウス。誰が何と言おうと大成功！

つまりは完成！ということは、即、完成記念パーティーに移行という段取りだ。この日の観客参加者は、残念ながら都合で来れなかった河野さん、脇田さん、川名さんを除いて、計4名。ピザ窯に火を入れ、ノンアルコールのビールを用意した。寒い季節だが、フィアフレイスに火をおこせば

ついに完成記念パーティー開催！ツリーハウスの前でバクつくピザが美味しそうに決まっています！



ついに完成記念パーティー開催！ツリーハウスの前でバクつくピザが美味しそうに決まっています！



冬空の下、我が建てたツリーハウスがひっそりと佇んでいる。絵になると自画自賛の我がす

塗りやすい！
きれいなアースカラー！
と評判でした

DTP（ドゥーパ！ツリーハウスプロジェクト）の最終施工日を目前に控え、頼もしい助っ人が現れた。森の木になるべく負担をかけるにツリーハウスを建て、そこで遊びながらエコの大切さを学んでいくという趣旨に賛同し、高性能木材保護塗料「キシラデコール」のメーカー、日本エンバイロケミカルズが塗装についての全面的な協力を申し出てくれたのだ。

前述のように塗装作業が行なわれたのは施工が最終章を迎える最後の2日間。用意した塗料は「マホガニ」「チーク」「ウォールナット」の3色。日光や紫外線に強く、鮮明な色が長持ちすることでも知られるキシラデコールだが、15色そろったカラーパリエーションから編集部が選んだのは、森の中でナチュラルにマッチするアースカラー系の3色だ。

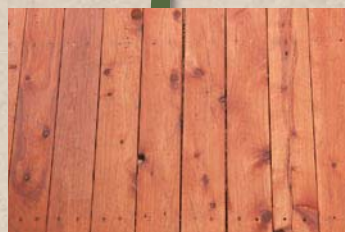
まず、屋根材にマホガニを塗り、続いてデッキの床材にチーク、そして渡り橋部分にウォールナットと塗り分けた。屋根材については組む前に地上で編集部が、その他は施工最終日に読者参加者が空中で作業した。

キシラデコールは耐候性と耐生物性の素晴らしさに定評があるが、実際に塗装してみても、実感できたのは、よく伸びるので、ハケさばきがよく、塗りやすい。



施工最終日、キシラデコールで最後の仕上げ！嬉しい瞬間でした

【第2特集】
ツリーハウスを作ろう
Living Under the Sky



チーク色を塗ったあとのツリーハウスの床。木目がきれいに出る



塗りやすい、よく伸びる。なによりも色がいいと参加者の評判も上々

豊富なカラーチャートも魅力だ

カラス(下塗り専用)	ビニー	チーク	エボニ	カスタン
タンネングリーン	マホガニ	バリサンダ	シルバグレイ	
オリーブ	ウォールナット	ジェットブラック		
ワイス	スプルース			
ブルーグレイ				



家庭用のキシラデコール製品のラインアップ。0.7ℓ缶、1.6ℓ缶、3.4ℓ缶、7ℓ缶、14ℓ缶が用意されている

ドゥーパ!×日本エンバイロケミカルズ コラボ企画
ドゥーパ! ツリーハウスプロジェクト 最終章spl.

作った! 登った! 塗った!
「キシラデコール」で、完成だ!